

新病院で働く看護師の意欲調査 ～より良い看護が提供できる環境を目指して～

○渡辺真弓、土澤あみん、松木絃子、
大田陽子、相川俊子、向山香奈

稲波脊椎・関節病院

【はじめに】当院は岩井整形外科内科病院の脊椎と関節に特化した分院として今年7月に開院した。病棟看護師22名のうち本院からの異動者が8名で6割が新規採用である。

また、多くの看護師が立ち上げに希望を抱き臨む反面、予想以上に苦慮することも体験している。そのため、看護師の意欲にも変化があり、結果によっては看護に影響することも懸念されると考えた。そこで、開院前と開院3ヶ月での看護師の意欲の変化を知ること示唆を得たので報告する。

【方法】看護師22名の意欲の変化についてアンケート調査

【考察】入職時期、経験年数、教育過程、そして看護観が異なる看護師が病棟を立ち上げ、チーム作りするプロセスは簡単ではない。それは看護の専門性だけでなく、発想力と責任そして実行力など個々のメンバーシップが求められる。また苦難がある時ほど前職との違いに戸惑いが大きくなる。当初は漠然とした不安も大きかったが、開院3ヶ月後、徐々に人間関係が築けてきたことで変化してきている。ただし、この短期間では、やりがいや前職との方針の違いに十分な受け入れまでには至っていない。

看護師個々の力量だけでなく、特性も含め認め発揮しあえるチームをつくることが病棟の看護の質につながると考える。

【まとめ】アンケート調査により入職前と入職3ヶ月では明らかな意欲の低下は見られなかった。個々が感じる期待・不安の内容・意欲低下となる誘因を知り、改善を検討することで当院の特性を生かした看護を提供できるチームを作ることにつながる。